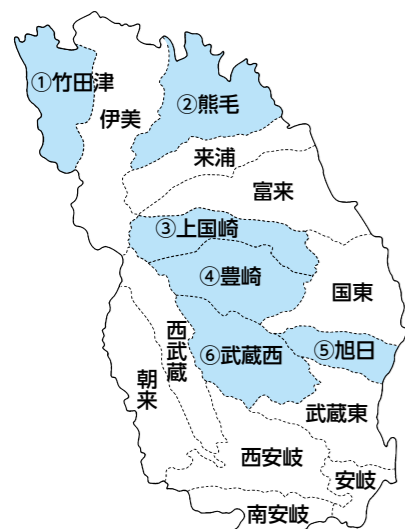


かもめも取り組む

地域支え合い活動とは

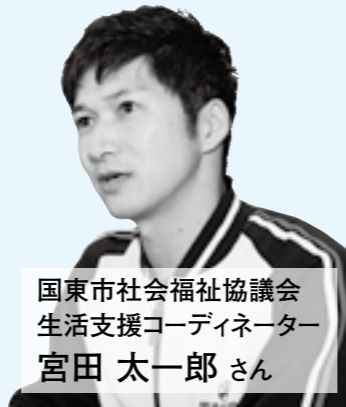
地域住民同士が
助け合う仕組み作り



6地区で実施

- ①かもめ(竹田津地区)
- ②大輪(熊毛地区)
- ③あらたに会(上国崎地区)
- ④一村一心の会(豊崎地区)
- ⑤あさひネット(旭日地区)
- ⑥武漢の会(武蔵西地区)

社会福祉協議会は市や地域住民と協働し、皆さんが住み慣れた地域で、元気に生き生きと暮らせる地域づくりを進めています。その重点事業が、「地域支え合い活動支援事業」です。現在、市内6地区で「生活支援



国東市社会福祉協議会
生活支援コーディネーター
宮田 太一郎 さん

について話し合う場」が設けられ、カフェや食事会、買物支援といった各種生活支援が、地区公民館を拠点に住民主体で実施されています。
地域支え合い活動は、支える方が一方的に支えられる方を支援するだけではなく、一人一人ができることを地域で発揮する「出番と役割」を同時に作り上げていく取り組みだと考えています。私たちは、この活動をこれからも精一杯応援していきます。一緒に、地域支え合いの輪を広げましょう。



国東市高齢者支援課
高齢者支援係長
溝部 一晴

今後国東市では、最も介護を必要とする85歳以上の人口は増え続けますが、一方で支える側の64歳以下の人口は減少していきます。介護ニーズの増加に対して、介護を担う人材が不足している状況にあります。また、介護サービスの利用者が増えるほど、皆さんにご負担いただく介護保険料の増加も避けられなくなります。
現在の介護サービスには、身体介護に限らず、調理や買い物、掃除などの「生活支援」も含まれています。この生活支援のサービスを、地域住民同士の助け合いで解決する仕組みを



食事会(武漢の会)



生活支援について話し合い(あらたに会)



視察受入(あさひネット)



小学校交流会(大輪)



カフェ(一村一心の会)

作れば、介護人材不足や保険料増加といった問題に対処できます。地域支え合い活動は、介護人材の需給バランスを維持し、介護予防の効果を高めるとともに、市の介護保険制度を次の世代に引き継ぐためにも、必要な取り組みなのです。

特集

孤立を防ぎ、地域に笑顔を

～かもめ・見守りお弁当配達事業～



新型コロナウイルスの感染拡大が、地域社会に暗い影を落としています。社会のあらゆる場面で人との接触を控える動きが広がっており、市内で行われていた地域支え合い活動やサロン事業なども活動停止を余儀なくされました。
ウイルス感染防止に伴う外出自粛により、全国的に問題となっている「高齢者の孤立」。市内でも地域支え合い活動などにより行われていたカフェ(会話やお茶を楽しむ集まり)や食事会が休止となり、高齢者の大切な居場所が失われています。
いつもカフェに来てくれていたあの人は、今どこにいるだろうか。
こんな時こそ、地域で助け合えなければ。

国見町竹田津地区で行われている地域支え合い活動の運営団体「竹田津くらしのサポートセンター」かもめ(以下、かもめ)のメンバーは「この状況でも、何かできることはないか」と考えていました。地区の高齢者の孤立が、心配だったので。そのような中、あるかもめ利用者からの相談をヒントに、新たな事業を始めることを決定しました。地域のために、かもめのメンバーは再び動き出します。

今こそ、かもめの出番。孤立を防ぎ、地域に笑顔を。

今回は、新型コロナウイルスに立ち向かう、地域の取り組みを特集しました。